



広島市立大学 国際学部 フランス文化論

ケルトの自然信仰 における 「動物表象」

講師：鶴岡真弓

多摩美術大学 教授
同芸術人類学研究所 所長

1月21日 月 13:00~14:30

会場：語学センター LL403B

* 本講演は後期開講「フランス文化論」(担当: 国際学部・大場静枝)の授業の一環で開催します。受講者以外の方の聴講も歓迎します。

概要: ヨーロッパ大陸で、紀元前750年ごろから高度な鉄器文化を営んだケルト語系民族は、アルプス以北の基層文化を形成した。キリスト教中世以降も生き残った「自然信仰」と、それを視覚化したケルト芸術の「造形表象」の数々は、ユーラシア世界のそれらと共振する要素を明らかにしている。今回は「ケルト文化」を彩る「動物」表象を、神話伝説を参照しつつ、先史・古代・中世そして近代のリヴァイヴァルまでにおいて検証したい。

Profile: 美術文明史家。早稲田大学大学院修了後、アイルランド、ダブリン大学トリニティ・カレッジ留学。『ケルト/装飾的思考』(筑摩書房)で、わが国でのケルト文明/芸術理解の火付け役となる。著書は『ケルト再生の思想』(ちくま新書)『ケルトの想像力』(青土社)など多数。